平成29年度 八代市議会経済企業委員会 視察報告書

■視察日程

平成30年1月24日(水)~26日(金)

■視察先

1月24日午後 京都府京都市

1月25日午後 京都府舞鶴市

1月26日午前 大阪府堺市

■視察参加者

 【委員会】委員長
 成松 由紀夫

 副委員長
 西濵 和博

 委員
 亀田 英雄

 委員
 北園 武広

 委員
 髙山 正夫

 委員
 増田 一喜

【執行部】経済文化交流部長 辻本 士誠

【随 行】議会事務局 土田 英雄

■視察先及び目的

1 京都府京都市

『インバウンド戦略(施策、取り組み)について』

京都市は日本を代表する観光地であり、インバウンドにも先進的に取り組み、その関連施策は190を超えている。外国人の宿泊者数も増加しており、最近の質へもこだわった取り組みについて視察することにより、本市のインバウンド戦略への参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

2 京都府舞鶴市

『クルーズ船寄港に伴う観光振興について』

舞鶴市はクルーズ客船の寄港誘致を進め、近年、寄港数が飛躍的に増加している。 そのような中、クルーズ船の寄港をどのように地域経済の活性化へつなげ、また、 町なかへの回遊性を高め、もてなしによる経済活動を促進しているかを視察するこ とにより、本市の観光振興施策への参考にするとともに、今後の委員会活動に生か すことを目的とする。

3 大阪府堺市

『堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について』

堺市の歴史文化を広く発信するとともに観光集客にも資するため、文化施設や観光の玄関口となる観光案内施設及び大型バスの駐車場も備えた公共施設と、民間企業が飲食などを提供する来訪者サービス施設を一体的に整備された「さかい利晶の杜」を視察することにより、本市が建設を計画している「八代民俗伝統芸能伝承館」の整備の参考とするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

- 1 視察日時 平成30年1月24日(水) 14:00~16:00
- 2 調査事項 『インバウンド戦略(施策、取り組み)について』
- 3 調査内容(説明内容)
 - (1) インバウンドに対応した施策及び取り組みの概要
 - (2) 現状及び効果等
 - (3) 問題点や今後の課題
 - ※上記内容については、別添「京都市の観光政策、インバウンドの取組等について」 を参照。

4 主な質疑応答

- Q 1 本市のホテルや旅館等の客室数は2000室ほどであるが、京都市はどのくらい あるのか。
- A1 平成27年度末で約30,000室あり、現在,ここから10,000室増加させようと進めている。リッツカールトンの進出の際には、市長がトップセールスのため動かれたと聞いている。なお、この数にはもちろん違法民泊等の部屋数は含まれておらず、違法民泊等は徹底的に排除する方向である。
- Q2 京都市内における外国人観光客のマナーはどのような状況か。
- A2 平成27年の春節くらいに、中国人観光客が急増したことにより、マナーが悪いとの苦情が殺到した。これを受けて、マナー啓発等のリーフレットやポスター、トイレの使い方ステッカーを作成した。また、民間事業者が発行しているフリーペーパーにもマナー啓発の記事を掲載していただいたりして、取り組みを行っている。市民の意識の中にも、苦情を言うだけではなく、みずからも何かやらなければという意識が生まれ、啓発活動をされたりしている。市のホームページにも学生による啓発活動の様子等を掲載しているが、最近は市民と行政が一体となって啓発活動に取り組んでいる。また、中国の旅行協会や旅行会社、政府機関等、考えうるさまざまな手段を用いて、啓発活動等は行ってきている。しかし、苦情は一時期よりは減少しているが、なくなったわけではない。
- Q3 観光行政や政策立案等に携わる職員等の人材育成。あるいは、行政以外とのネットワーク構築はどのように行っているのか。
- A3 職員は定期異動があるため、生涯観光行政だけに携わっている職員はいないが、

国土交通省から職員を派遣していただいている。また、世界の主要20都市に事務所を持ち、日本へのインバウンド・ツーリズム(外国人の訪日旅行)のプロモーションやマーケティングを行っている日本政府観光局: JNTO (独立行政法人 国際観光振興機構)という組織に京都市の職員を派遣している。また、京都大学とも観光面での協定を結んでおり連携している。

- Q4 民間と行政との役割分担はどのように考えるか。
- A 4 主役は民間だと考える。実際、宿泊施設やお土産物やで観光客を迎えるのも民間であるし、民間の方々が、より儲けていただくためにやるのがベースで、行政はそれをサポートする役目だと思う。しかしながら、一人ひとりがバラバラの方向を向いていては、地域としてのブランドや魅力が伝わらないので、一定のビジョンや方向性を示すのは行政と民間が一体となって行わなければならず、その舵取り役は行政が担わなければならないと考える。それから、マナーの問題や違法民泊の問題など、観光客の増加やテクノロジーの発達に伴い、市民生活との調和が乱れてきた部分の是正については、行政に求められるものだと考える。
- Q5 平成27年度から行われている、京都市認定通訳ガイド制度の詳細について教えていただきたい。
- A 5 通訳ガイド制度に取り組まれている自治体に比べると開始は遅かったが、その代わり、先に開始されている制度を研究した。そこで、育成するだけではなく、認定した後の活躍の場をどうするのかといった部分にまで目を向け、制度設計を行った。資格を取り、認定を受けた後の最初の働き口の紹介までを視野に入れ、制度設計を行いスタートさせたほうがよいと考える。九州では「九州観光振興機構」という団体が、同様の制度に取り組んでおられるので、新たに制度を立ち上げるのではなく、そこの通訳を活用するという考え方もある。
- Q6 閑散期の取り組みについて具体的に教えていただきたい。
- A6 ・京都花灯路と称した、嵐山の竹林や東山の寺社仏閣等のライトアップ。
 - ・市内各レストランにて2月限定メニューを特別価格で提供。
 - ・3月に開催していた京都マラソンを2月開催に変更。
 - ・ JRとタイアップし「京の夏の旅」「京の冬の旅」と題した、その時期にしか 体験できないメニューを実施。(普段公開されていないお寺等の開放であった り、伝統産業の技を生かした体験メニューなど)

※添付資料

- ・京都市の観光政策、インバウンドの取組等について
- ・トイレのつかいかた
- 京都ノトリセツ

※視察の様子









- 1 視察日時 平成30年1月25日(木) 13:20~14:50
- 2 調査事項 『クルーズ船寄港に伴う観光振興について』
- 3 調査内容(説明内容)
 - (1) 舞鶴市及び舞鶴市議会の概要
 - (2) 2016年クルーズ客船寄港状況
 - (3) おもてなしの状況
 - (4) 京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし関係者連絡会議
 - (5) 京都舞鶴港クルーズサポーター
 - (6) 外国人観光客向けの免税店舗の拡充
 - (7) 2016年のクルーズ客船寄港に伴う経済効果試算
 - ※上記内容の詳細については、別添「京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし事業のまとめ 2016」を参照。
- 4 主な質疑応答
 - Q1 クルーズ客船入港情報の共有化はどのように行っているのか。
 - A1 クルーズ客船のツアーが企画された時点で入港が確定するため、市のホームページに日時やどういった船といった情報を掲載している。さらに、京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし関係者連絡会議(地元商店街、商工関係者、学校、市民団体、ボランティアガイド団体等)にて情報提供を行っている。その中で、どのようなおもてなしや事業をするのか協議、調整を行っている。
 - Q2 クルーズ客船寄港時の経済波及効果が各回1000万円を超えるとのことだが、 その内容について教えていただきたい。
 - A 2 接岸料やシャトルバスの運行費用、街の中に流れた客数、観光施設への入館者数、 タクシーの利用台数などの情報を集約し、総務省の産業連関表に基づき試算して いる。なお、この金額は舞鶴市だけでなく、オプショナルツアー等の分も含んで おり、クルーズ客船1隻あたりの金額である。
 - Q3 京都府との連携はどのように行っているのか。
 - A3 京都府と舞鶴市がお金を出しあい、舞鶴港振興会という組織を作り、物流の営業等を一緒に行っている。また、京都府が今年から港湾局を舞鶴埠頭に配置された。

- Q4 京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし関係者連絡会議の年間の会議回数、窓口はどこが行っているのか。また、メンバーの中に京都舞鶴港クルーズサポーターという団体があるが、このサポーターは有償なのか無償なのか。
- A 4 会議は平成 2 4年に立ち上げ、当初は年に 4・5回ほど会議を行っていたが、最近は年に 2 回開催している。事務局については、舞鶴市の商店街を取りまとめている舞鶴商工振興会と市に置いている。また、京都舞鶴港クルーズサポーターについては、市のほうで通訳ボランティアや茶湯接待をしていただく方を、サポーターとして登録しており報酬はないが、一日対応される際はお弁当代を支給している。
- Q5 通訳ボランティアは自らが立ち上がり出来上がったのか、それとも市が準備されたものなのか。
- A5 金融機関等で外国語を話せる職員等を派遣してもらったりしている。全体的な話になるが、クルーズ客船が来ても何もしない情報もなければ、いくら港から商店街が近くてもお客は来ない。そこで、市としては商工振興会に対し、イベントの開催等、お客が来る手立てをしていただくよう働きかけたり、多言語でのマップ作成を行っている。また、各商店に対しても、多言語による商品紹介のポップであったり、食事メニューを作るなど、お客が来るよう自助努力を促している。

※別添資料

- ・京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし事業のまとめ 2016
- ・表1「2017年の寄港状況」
- ・舞鶴市議会の概要

視察の様子









- 1 視察日時 平成30年1月26日(金) 9:45~11:30
- 2 調査事項 『堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について』
- 3 調査内容(説明内容)
- (1) 施設整備の経緯(事業目的)
- (2) 施設の概要
- (3) 運営状況(指定管理等)
- (4) 現状 (来館者数等) 及び経済波及効果等
- (5) 問題点や課題、今後の方向性
- ※上記内容については、別添「さかい利晶の杜施設概要」、「文化観光拠点『さかい利晶の杜』の事業経過」、「さかい利晶の杜開設から約1年間の経済波及効果の推計結果」、「歴史文化のまち『堺』に新たな観光名所が誕生!」を参照。

5 主な質疑応答

- Q 1 施設の運営の説明の中で島根方式による指定管理との説明があったが、どのよう な仕組みなのか。
- A1 島根方式というのは、全てを指定管理者に委ねるのではなく、学芸部門、資料の 収集や保管、展示関係については、専門知識が必要であることから、直営にした まま残し、その他の部分を指定管理者に委託する方式である。
- Q2 リピーター確保のための工夫はどのように行っているのか。
- A 2 立礼呈茶という、椅子席で抹茶や和菓子を味わう体験をポイント制にし、5ポイント貯まったらプレゼントをしたり、100ポイント貯まったらアンバサダーに就任したりといったサービスを行っている。また、企画展も年間3回ほど実施している。今回開催するアニメとのコラボ企画は、1年前から計画し実施する。
- Q3 来訪者サービス施設は重要と考える。そこで、貴施設がこのような施設を誘致された観点はなにか。
- A3 お客様に満足いただけることはもとより、土地を貸すことにより貸付収入が年間 1230万円入り、21年間の契約をしており、最終的には2億を超える収入が 見込まれることの要因である。また、同じ敷地内に飲食店を設置することにより、 お客様がすぐに利用でき、経済波及効果も期待できる。

- Q4 若年層の取り込みということで、今回、アニメとのコラボ企画を実施されるが、 プロモーション活動はどのように行われたのか。
- A 4 さかい利晶の杜の企画であるため、主に指定管理者がポロモーション活動は行っている。しかし、ポロモーション活動を行うに当たり、堺市の職員が一緒にいくことにより、自治体が入っている企画ならばということで、活動がスムーズにいく場合もあるため一緒に動くこともあるが、あまりにも係わりすぎると指定管理者の主体性が無くなったり、機能しなくなる場合もあるので、様子をみながら行っている。
- Q5 指定管理料等はどのようになっているのか。
- A5 指定管理料は年間2億円かかっている。当初より人件費等がかさみ年々増加している。また、黒字が出た場合は、その50%を還付していただく仕組みになっており、初年度の平成26年度は10日ほどの営業であったが、150万円還付があり、平成27年度は550万円の還付、平成28年度は赤字であったため還付はなかった。今後は決算関係、支出関係も含めて指定管理者と調整しながら進めていく必要がある。

※参考資料

- ・さかい利晶の杜施設概要
- ・文化観光拠点『さかい利晶の杜』の事業経過
- ・さかい利晶の杜開設から約1年間の経済波及効果の推計結果
- ・歴史文化のまち『堺』に新たな観光名所が誕生!
- ・ 堺の概要

視察の様子









〈〈各委員所見〉〉

委員名【成松由紅木

◆視 察 日:平成30年1月24日(水)

◆視察先:京都府京都市

◆調査項目:インバウンド戦略(施策・取り組み)について

・インバウンドに対応した神楽及び取りくみパフいては、日本の在主があり、 1.「人づくり、まちつ、くり」として、京都市限定がイド申度の導入、おき てなしコンジェルジェ」制度の充実、観光経管を学い高等数直機均等の 12 係致の支援等があり 2. 「魅力の行上, 跨致手法, 717、目刊を 房。访日旅行者。诸致强化,从不少公受入体制。充实等水波少,3.短力 の発信、コミュニケーション」と17、優外拠点都市における観光客、X元 アハのマークット調査も強化している事が概要である。 ・現状と課題として、特区制度も28月した市内限定の近訳がイドを養成する 独自の制度をH27年度から始め、手都市ならではの専内性の高い研修を 実施し、分野別のガイドを育てて市の人材が輸ンクに登録し、各国体化 H28年末も目金に100人を予定し、英語に偏らず多言語に対応できる様に しているが、今後、更らる外国人観光客の指加か見込まれ、ますますニースが多 孫化す了中質量でも下充実した道沢がイトの確保が課題である ・京都市では、早朝のイベントで宿泊客をゆるうな、小はな事から、インバウンドが年の事業 数も頂えたから、精度をより確実によけ、質を食成成的によげている事が印象的で JA.R.

委員名[成私 由紀夫

◆視 察 日:平成30年1月25日(木)

◆視 察 先:京都府舞鶴市

◆調査項目:クルーズ船寄港に伴う観光振興について

・外国人観光客向けの事業や取り組みとして、「京都舞鶴港クルース」サポー ター」による外国語での案内を行い、物販、飲食ブースや入出港時セレ モニーパフォーマンス等があり、西地区商店街では西南民プラザを 体想及1001217位置1171、梦中三味镜,香道,着物,お茶 度等多彩なおもてなしイベントが行われている. ・取り出了探要として、クルーズ客船おきてなし肉体者連絡会議 と関係団体と設け、通限がランティア、クルーズサポーター、外国人 観光客向けの免税店の拡充等がある. ·经济效果、17、直接效果/境6千万円、胶及效果之底64万 円であった。(2016年) ・課題と今後の戦略と17乗船客の方々への「おそてなし」も 直し、ますを挙げたクルーズ客部の金加めの気里を含めるのは もまる人、ようなるますの的他化」シフォかる様、換集している、か、こちら ではショートクルーズへの取り組みに力を入れてかられるのか。 印象的であった

要員名 (成松由紀夫

◆視察日:平成30年1月26日(木)

◆視察先:大阪府堺市

◆調査項目:堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

·施设整備の経緯と17、堺市は世界遺産登録をめずすた徳子皇陵等 をはじめとする歴史文化資源を有しており、数多く四歴史正在して いる中、周遊の拠点となる施設がなりことか、課題となっていた。 そとで、探の特色なる歴史文化を広く発信し、観光集を12資する ため、また市民が愛着のある施設となる様ではH8年に南鎖はれた 1日市立病院跡地にH27年3月に施設が整備は水オープンした。 ·施设的探票 217 敷地面积 4135 m2 (公共施设) 4/3 9 m2 (野車 地)延床面積3405m2274,7おり、建設黄34億円,52220コスト 2億円(指定管理料),構成217千州休茶の場館,茶の場体整施设 与谢野的子门包含等外的打了. ·里管状况、程谱波及到里217、雨馆後约48月で20万人で军由集会 目標も達成し、H29年11月現在で入館者/00万人も達成,約26億円の効 男で展用創出は295人となっている。 ・課題と方向性として、展示物や本物が少ないと不勝の声があるか、 大阪夏の厚や空養で焼けてしまった。弱年層にマンガ、アコメとコラホ。して イベント、スタンプラリーで、ダイ人動員する等勢のはれている事が的象的であった

委員名【西 濵 和 博】

◆視察日: 平成30年1月24日(水)

◆視 察 先:京都府京都市

◆調査項目:インバウンド戦略(施策・取り組み)について

京都市における 2016 年の宿泊客数は、1,415 万人(同市の人口が、約 147万人であることから、実に市人口の約10倍にあたる。)うち、318 万人が外国人観光客(インバウンド)とのこと。この外国人観光客の数字は 市が目標とする年度から5年も前倒しで達成している。その主な要因と して、ビザの緩和やLCCの就航を挙げられた。一方、同市は、観光客の 増加を追い求めすぎると市民生活に悪影響を与える面もあるとして、観 光と市民生活の調和を図り、好調な観光の効果を市全域に還元するため には量より質を追求する施策が必要としている。(京都市観光振興計画に 掲げてある「目標」の内容からも読み取れる) 2016 年度の訪日外国人旅行者数が 2,404 万人であったことから、 数字上は、8人に1人が京都市に宿泊していることになる。まさに、世 界に誇る観光都市・京都である。観光政策の市推進体制について伺うと ①国土交通省の職員を観光戦略部長(MICE 推進担当)として置いている。 ②観光庁の外郭団体である「JMTO 訪日プロモーション(ニューヨーク)」 へ京都市から職員を派遣している。③観光 MBA を開校している京都 大学とのパイプがある。(連携協定を結んでいる)等の説明を受けた。 また、日本を代表する観光都市・京都であるが、あまり取り上げられる

ことのない実態や課題が潜在しているのではないかと思料し、そのことは、
は、本市にとっても参考になるものと考え、次の質問をさせていただいた。
【質問】観光関連業者の近年における動向について(廃業、新規等の動向)
【回答】・宿泊施設については、とても需要が戻ってきている。
・小売店は、最近のインバウンドを中心として新規出店が多い。
・日帰り観光客は減少傾向。インバウンド対策が進んでいない。
・免税店の取り組みを行っているところは、好調。
・商店街では、「観光客を相手としなくても地元住民でいいんだ。」
というところもあるとのこと。
更に、具体の観光施策の官民の役割に関しては、京都市の担当職員から、
このような考え方が示された。「観光施策の主体は、行政でなく全ては民間
である。やはり、民間に儲けていただくことが一番。行政は、それをサポ
ートさせていただく立場。かと言って、それぞれがバラバラではいけない。
一定の目指すべき姿、ビジョンを示すなど、舵取り役は行政が担うべきと
ころと思う。」
目まぐるしく変化し続ける観光分野の潮流と受け皿となる地元の今後の
対応の在り方を考えると、観光の経済効果をいかに市民生活の向上に結び
つけていくかという視点を持って、観光関係業種の方々のみならず、市民
に対しその意義を広くお知らせし、産学官民一体となって取り組むことが
肝要ではないかと、改めて考えさせられた。

委員名【西 濵 和 博】

◆視 察 日: 平成 30 年 1 月 25 日(木)

◆視 察 先:京都府舞鶴市

◆調査項目:クルーズ船寄港に伴う観光振興について

舞鶴市は、"軍港として発展してきたまち"とのこと。 98kmにも及ぶリアス式海岸を有し、重要港湾舞鶴港は日本海側の拠点 港として位置付けられ、今では、この港を玄関口としたお客が増えてきて いる。(H29 年度実績: クルーズ船は39 回の寄港、来訪客は約4万人) クルーズ船の寄港により、舞鶴市の観光のあり方が大きく変化したとのこ と。現在、宇治市、亀岡市と連携し、寄港によりお客を関西空港へ流すと いうプランをもって、関係エージェント等に商談をしておられる。 また、舞鶴の海岸遺産が、イコモスの 20 世紀の残すべき遺産に選ばれ たことも観光政策に追い風になっている様子。 舞鶴候港も八代港と同じく府・県が管理する重要港湾であることから、 ①府との連携の状況、②府からの補助金等の支援措置について質問をさせ ていただいた。説明の概要は次のとおりであった。①京都府と舞鶴市、双 方が関わる場として、舞鶴港振興会を設置している。②振興会には、府と 京都市がそれぞれに負担金を拠出しているが、これ以外に、府からの財政 支援は今のところはない。ただ、舞鶴港のふ頭に府から関係する「局」を 設置していただき、ハード分野の整備のみならずソフト面の業務をこの 「局」で担っていただいている旨の回答であった。

また、クルーズ船の誘致については、京都府の職員と舞鶴市の職員が 一緒(一丸)となって、これまでの 20 年間ともに活動を進めてきたとの こと。一方、インバウンドに関する取り組みは、始めてまだ4年目であり、 逆に、八代市の取り組みも学ばせてもらいたいとの発言もあった。 舞鶴は、軍の港を生い立ちとしており、現在は、自衛隊の護衛艦等も利用 する港である。八代市は主に物流港として発展してきており、それぞれの 経緯は異なるものの、クルーズ船の寄港によるインバウンドを観光政策に いかに活かすかという取り組みの方向は同じであり、今回の視察を契機と して、今後も互いに情報交換等を行っていくのも一つの方策かもしれない。 とりわけ、舞鶴市では、舞鶴港を発着とするクルーズ船の観光プラン を設定しており、とても興味深い施策であると感じた。 今後、本市においてもこの分野の開拓も視野に入れることができないか、 検討していく価値があるものと受け止めた。

委員名【西 濵 和 博】

◆視察日:平成30年1月26日(木)

◆視察先:大阪府堺市

◆調査項目:堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

今回の視察に際し、堺市で準備していただいた説明用の資料の表紙には、 次のタイトルが示してあった。"歴史文化の町「堺」に新たな観光名所が誕 生!~利休と晶子に会いに行く~"「さかい利晶の杜」に対する堺市のまさ に想いの深さを感じ取れるキャッチフレーズであると思った。 施設の構成概要については、①千利休茶の湯館・さかい待庵、②茶の湯体 験施設、③与謝野晶子記念館、④観光案内展示室、⑤来訪者サービス施設 (湯葉と豆腐の店「梅の花」、スターバックスコーヒー)となっていた。 この構成を見て、次の質問をさせていただいた。【質問】飲食が出来る 施設を併設した理由について【回答】①から④までの施設だけでは、来訪 される方に満足してもらえないと考え、飲食ができる⑤を必須で設けた。 私は、かねてより、本市が計画する八代民族伝統芸能伝承館(仮称)におい ても、くつろいで飲み物や軽食等を楽しみながら語り合えるスペースが必 要ではないかと考えていたところであり、この度の視察で堺市が設けた飲 食施設の設置理由については、頷けるものであった。 - 今般の視察対応をいただいた堺市の説明者は、この施設内の直接の担当 者ではなく観光推進課所属の職員であったが、学芸員かと思うほど微に入 り細にわたり、市の観光全般はもとより歴史や文化をはじめ多岐に詳しく

解説をされた。
また、年間の入館者の目標や、ランニングコストについても非常に高い
意識を持っておられ、行政職員に必要と言われる行政経営やマネージメン
トの感覚を身につけていらっしゃると感心させられた。
新規の公共施設は、これまでは構想・設計、そして建設までがクローズ
アップされがちだったが、イニシャルコストばかりでなく、合意形成の手
法や建設後の維持管理の計画も含めて、将来のまちづくりの中における
果たすべき役割や持続性等についてもしっかりと向き合う必要があると感
じた。公共施設を行政における経営資源として捉え、設置目的が発揮でき
るように管理、活用するファシリティマネジメントについて私たちも行政

と一緒になって考えていく必要がある。

八代市議会経済企業委員会 管外行政調查所見

改革・市民の会 亀田英雄

今回の視察は、第4期市議会において、委員会再編後初めての視察であった。

八代市でもクルーズ船の来航は増えており、今後もますますということもあり、港のハードの整備も進む中、今後に必ず生かさねばと興味を持ちながら視察を行った。 以下、それぞれの所見を簡単に述べたい。

◆視察日:平成30年1月24日(水)

◆視 察 先:京都府京都市

◆調査項目:・インバウンド戦略(施策・取り組み)について 《所感》

京都は日本最大の観光都市であり、それはとりもなおさず、あれだけの素晴らしい観光資源があれば当然のことだとの思い込みがあったが、庁舎に伺い、説明を聞く中で、1956年に制定された京都市民憲章に「旅行者を温かく迎えましょう」という章があり、これだと共感し、非常に驚いた。感激に近いものがあった。

インバウンドの取り組みは100年近いものであるとのことで、歴史があるなかで、そこに はきちんと市民と意識の共有が図られている。また、不満を解消し、満足を伸ばす努力を重 ねられている。

この京都にしてこのような努力の下地をもって現在に至っているという現実。観光資源に依存しているだけでなく根本的なものが違う、覚悟の違い、取り組む姿勢の違いがここにあるというものを見せてもらった。ここに根本的な違いがあるのだと感じた。

八代でも賛否両論あるのに市民と意識の共有化がどれだけ図られているだろうか。ないと思う。 まずそれを発しない限りは同じ方向は向けないのではないかと強く感じた。

観光客のマナー啓発などについても、様々に取り組まれており、多言語のリーフレットなどを作成し、効果・成果をあげられているのは素晴らしいものであった。それも行政だけに頼らず、市民自らというところもそのような文化であると、また、そのようなものでないと効果は発揮できないと思った。

市の観光政策もはっきりしており、観光の経済効果を市民の生活向上に向ける。主役は市民、行政はサポート。より設けていただくとの話も聞けた。また、皆バラバラでは困るということで、一定の方向性を目指す、そのかじ取り役は行政ということであった。

繁忙期と閑散期の平準化も考えてあり、京都マラソンの時期変更には驚いた。

◆視察日:平成30年1月25日(木)

◆視 察 先:京都府舞鶴市

◆調査項目:・クルーズ船寄港に伴う観光振興について

《所感》

京都での視察の折、説明者から、舞鶴とは良好な関係があるとのアナウンスがあり、どんなものかと思いながら、雪深い舞鶴へ向かった。

京都市とは協議を重ねて20年の歴史があるとのことであった。ここに何かのヒントがあると感じた。

ここでも担当者はとても丁寧に熱心にできる限りの説明を頂いたとありがたく思った。 旅行の企画を実際行い、どうすればクルーズ客船のお客に、舞鶴に降りてもらえるか、担当 ならではの重みを交えての話だと伺った。

前泊、後泊のツアーを作って、舞鶴から乗降船する提案を行う。舞鶴を玄関口として観光客が流れていく。ツアーを計画することが大事であり、自然と経済効果は発生していくものである。

舞鶴には歴史的建造物が数多くあり、そんなものを生かす取り組みをされていた。八代でも 取り組めるものである。

このような目的を持ってこその事業の成功であり、成果を上げるための取り組み、旅行の企画などは是非八代でも取り組んでもらいたいものである。

町のマップが作成してあり、自分たちで何があるか示さないと、何も来ないとのことであった。

免税店が市内に多くなってきた仕掛けは行政。取り組みは民間とのこと。 港での物販も行われているとのことであった。

◆視察日: 平成30年1月26日(金)

◆視察先:大阪府堺市

◆調査項目:・堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

《所感》

素晴らしい建物にまず驚かされた。そして担当の意気込み、熱意に感心し、頑張ってほしいと願った。

堺市は交通の要衝であり、このような施設の必要性を強調され、取り組みには共感するもの の、施設の維持はどこの自治体でも大変な苦労があるのではないかと心配もしてみた。

それでも担当は、これからも様々なプランもあるようで、このような職員がいる間は運営も上手くいくのではないかと思った。

このような施設で利益を出さないまでも、大きく赤字にならないようにするには並大抵の苦労ではならないのではないか。

堺市は財政的にも八代市より豊かであろうし、心配することでもないが、伝統芸能伝承館は とうなるのかと心配、不安がある。とうか杞憂であって欲しいと願いながら帰途についた。

最後に

一口に観光と言っても、取り組みはさまざまであるが、共通として根底にあるものは、市 民が中心という考え方ではないかと思った。市民との共通理解、相互理解、コンセンサスを 図るということがどれだけ大事かと思い知らされた視察であった。

日本一の観光の最前線でもこのような基本が徹底されていることに驚愕し、八代での取り組みをどうすれば成功に導けるのか、関係者のなお一層の想いを期待したい。

議員名【髙山正夫】

◆視察日: 平成30年1月24日(水)

◆視察先: 京都府京都市

◆調査項目: インバウンド戦略(施策・取り組み)について

言わずと知れた国際観光都市「京都」。

インバウンドに対応した施策及び取り組み及び概要については、京都市観光協会とDMOとの連携。官民の観光客に対する差別化「民」に動いてもらい「官」はサポートする体制を徹底。観光ガイドと通訳ガイドの育成。観光職員のスキルアップ。国交省と京都大学観光MDA等と連携し、観光振興計画の策定。京都府とのコンベンションビューロー。中連協会総会等出席し中国旅行会社とのやりとりも行っている。

また、現在、国家としても観光に力を入れており、観光庁とも常に情報収集及び調整をおこなっている。

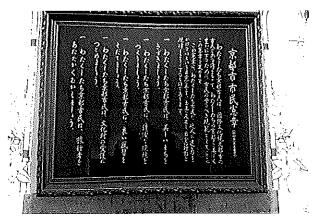
閑散期の対策としては、レストランウインタースペシャル・京都マラソンの2月 開催・JRと連携し「夏」「冬」対策・伝統体験・文化財体験(普段は入れない ところへ一定時期閲覧体験させるイベント)・観光地ライティング等を実施し観 光客取り込み等、年間を通じて観光客数の安定を図っている。

また、問題である外国人マナーであるが、案内板の設置徹底と、小さいところで 言えば「トイレのつかいかた」等、初歩的なマナー書を作成し配布している。 京都市は、国際文化観光都市として「市民憲章」を昭和31年から告示し、市民 へ観光地としての受け入れ側の意識向上(おもてなしの心)を植え付けている。

所感としては、観光地として「人」(市民の意識)「物」(文化・観光施設)は 先進的かつ豊富であり、観光地慣れしていない本市と比較すると無理はあるが、 官民一体となって意識向上を高める努力と観光地発掘と施設整備等は急務である。

そして、もっと情報収集も必要である。





議員名【髙山正夫】

◆視 察 日 : 平成30年1月25日(木)

◆視察先: 京都府舞鶴市

◆調査項目: クルーズ船寄港に伴う観光振興について

舞鶴市は京都府から北へ日本海側ある中核市である。海上自衛隊基地もあり重要 港湾を保有する。人口83,000人の都市であるが、本市同様人口減少傾向に あるという。

まちづくり戦略としては、イノベーション(改革・革新)に取り組み、質的な向上や付加価値の創出を重視するとし、若年層のUターンを期待するため、雇用の 創出、経済の成長・拡大を生み出す取り組みを行うとなっている。

また、豊富な地域資源に磨きをかけ、経済循環の増大を通じて経済力を高めることを目指すとしている。

そして課題である港を活かした産業の振興では、高速道路の延伸、国際埠頭の共用、重要港湾指定、日本海側拠点港の選定など様々な優位性を活かし、物流・人流の活性化や国内外との貿易量の拡大に取り組み、賑わいの創出。東アジア地域国内地域の活力の積極的な導入による産業振興を図るとしている。

クルーズ船に関する取り組み事業内容については、京都市との観光連携による取りこみ。舞鶴市内観光パンフレットの紹介、免税店も増加傾向にある。また、商店街のインバウンドに対する意識向上対策等。イベントについては、物販を含めた「音楽イベント」の開催、「舞妓さんとの写真撮影会」、旧日本海軍の「赤レンガ倉庫」の知名度拡大等取り組んでいる。

その他、舞鶴からクルーズ船に乗る企画もあり、「京都舞鶴港クルーズ客船おも てなし関係者連絡会議」なる組織を官民一体となって、立ち上げながら事業も策 定している。

本市についても、港の性質・街の大きさも近い状況であり、取り組み事項も参考 となった。ただ、世界的な観光地「京都」という名刺を活用している。優位性は うらやましいところ。

これから、地域商店・施設主・市民一体となって 観光客の受け入れに理解(観光客マナーにいやが るばかりでなく)していかなければ、進歩はない と実感。観光についても、周辺市町村の景勝地の 発掘と連携も重要であり、本市も観光地整備と免 税店の拡大も急務である。

議員名【髙山正夫】

◆視察日: 平成30年1月26日(金)

◆視察先: 大阪府堺市

◆調査項目: 堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

堺市内の集客、堺観光ネットワークの構築による、観光集客の増加・街の賑わいの創出と都市活力の向上に寄与する目的で、平成27年3月「さかい利晶の杜」と命名オープンした。

「さかい利晶の杜」のコンセプトは、堺の偉大な茶人「千利休」と与謝野晶子の 生涯や功績に触れながら、茶の湯体験ができたり、堺の観光情報を入手できたり と、いろいろな楽しみができる施設である。

位置的にも、大阪府中心地から電車で15分程度という、大都市圏内にある。 28年度年間入場者数は、33万人と好調(目標は年間20万人)。施設周辺に ついても賑わいが生まれる結果となっている。経営方式も島根方式と言って、学 芸員直営・指定管理者で展示物の収集もより専門的である。

課題としては、入場者的に高齢であり、若年層の取り込みと展示物の本物が少ない(レプリカが多い)ところである。

本市の「伝承館」構想を考えるに、堺市の、日本全国的に有名・著名な先人「千利休」「与謝野晶子」的な人物は見当たらず、本市はどこに力点を置いて「伝承館」を完成させるのか?「妙見祭」の出し物展示だけで、入場者への興味を持たせられるかは疑問であると実感した。伝承館建設にあたり、興味を引く内容を熟慮し、遊び心も必要である。ありきたりの展示施設から脱却することも重要であると実感した。



委員名【 北園 武広 】

◆視察日:平成30年1月24日(水)

◆視察先: 京都府京都市

◆調査項目:インバウンド戦略(施策・取り組み)について

1. インバウンドに対応した施策などの概要

インバウンドに対応した主な施策は、大きく4項目に分けて産業観光局が所管している。産業観光局の本年度予算概要は、一般会計合計 47,187,000 千円、特別会計合計 6,298,000 千円で、大項目の商工振興対策費に 43,648,117 千円及び観光振興対策費に 674,191 千円を予算計上されている。

施策 1. 人づくり、まちづくりには66事業あり、主なものに、観光案内標識アップグレード事業や、民間通信事業者との共同事業で、誰もが無料で利用できる全国一の自治体無線LAN(京都 Wi-Fi)などの事業があり、特に気になったのが、多言語対応の強化の部分で、宿泊施設向け24時間多言語コールセンターがあり、外国人観光客の京都滞在における満足度向上を図るため、宿泊施設向け外国人旅行者向けの多言語コールセンターを設置されている。

施策 2. 魅力の向上、誘致手法には 7 7 事業あり、温泉を観光資源としてフル活用したり、上質な宿泊施設の誘致や、旅館の利用促進などの方針を策定されている。魅力的だったのは、朝晩の観光と閑散期における魅力の創出で、名所にて夜間のライトアップを季節ごとに行われている。景観にも配慮され、電線の地中化や屋外広告物などの規制を行う事業などがある。

施策 3. 魅力の発信、コミュニケーションには 2 1 事業あり、主なものに、情報発信のツールとして、ホームページの多言語化があり、京都観光オフィシャルサイトは国内自治体最多の 1 3 言語に対応している。また、京都の観光情報の発信を、海外情報拠点場所として世界 1 1 都市で展開されている。特に充実している点は、京都市メディア支援センターを設置し、プロフェッショナルなメディアサ

ポート体制の確立と、京都に取材などで来られないメディアにも、魅力ある京都 情報の発信をサポート出来る体制が整備されている。 施策4. MICE戦略には27事業あり、京都ブランドや都市格の向上、市民生 活の活性化、高い経済効果が期待できるとともに、京都観光の「質の向上」にも 繋がることから、積極的にMICEの誘致活動に取り組まれている。 2. 問題点や今後の課題(解決策) 外国人観光客の急増などにより観光振興に対する課題も増えている。 分類するとおおきく3項目で、①違法民泊の増加とマナー問題 ②混雑の悪化 ③更なる京都経済への貢献があげられている。①の違法民泊に関しては、観光都 市京都ならではの問題で、条例の制定など議会で新たなルールを検討されている。 マナー問題の解決策として、日本・京都で守って頂きたい習慣やマナーを紹介し たリーフレット (英語・中国語など) を作成し、空港や市内宿泊施設などで配布 するとともに、電子データの Web 掲載や SNS などにより世界中に拡散されている。 ②の混雑の緩和に向けては、時間帯の分散(朝観光・夜観光)と、季節の分散(繁 閑の差を季節ごとのキャンペーンで解消)と、場所の分散(特定の場所に集中す るのを、市内全域の地域と事業者との連携した取組み等を支援することで解消) することで、集中の是正を図っている。 ③の更なる京都経済への貢献は、観光消費額の低迷に伴い、京都市の伝統産業が 危機的状態となってきている。対応策として、宿泊税制度の導入や観光産業など の人材育成・労働生産性の向上(京都市認定通訳ガイドなど)を図られている。 3. まとめ 日本でも有名な観光都市京都と、本市では知名度や規模の大きさでは比較になら ないが、インバウンド戦略としての考え方は学ぶべき点が多くあった、単に観光 振興に対する事業確保の多い少ないもあるが、プラス世界が共感する様な「質」 の向上、プラス世界があこがれる「感動」を与えられるか?だと感じた。 インバウンド戦略に取り組む事で、本市の経済をけん引するくらいの意義を持ち、 住みやすいまちであり続けるには、観光を通じた人と人、文化と文化のふれあい

等で観光客の感動を感じることにより、本質の維持と新たな価値を見いだし、それが新たな魅力の創出にも繋がるのではないかと考える。
私は、今回の視察に行く前から「京都?地元日奈久の観光振興とは規模的にも合わないし、参考にはならないだろう」と正直思っていましたが、担当の方から話を伺っているうちに、自分が恥ずかしく思えてきました。
観光事業のボリュームの多い少ないでは無く、ウェイトの重さ軽さだけでも無く、観光客の感動をも視野に入れた京都市の政策やおもいやりには感動しました。
八代市において、観光地日奈久をPRし続けられる様に、【観光産業は、すそ野の広い総合産業であり、地域経済への波及効果もおおきく、市民生活の向上にも繋がる】との認識のもと、地域が一つになれるようなお一層努力したいと思う。

◆視察日:平成30年1月25日(木)

◆視察先: 京都府舞鶴市

委員名【 北園 武広 】

◆調査項目:クルーズ船寄港に伴う観光振興について
1. クルーズ客船おもてなし事業の取組み・効果について
海の京都舞鶴港に寄港したクルーズ客船の寄港概要やおもてなしの状況と、クル
ーズ客船寄港に伴う市内への経済効果について報告致します。
1) 2016 年のクルーズ客船の寄港状況
2016年は京都舞鶴港に17回のクルーズ客船の寄港があり、日本人の客数約
16,200人と外国人の客数約6,000人で延べ約22,200人を超える
来訪者があった。外国人乗船客の国籍の傾向としては、「シー・プリンス」及び「ル・
ソレアル」においては欧米系が、「コスタ・ビクトリア」はアジア系が多くを占め
ていた。オプショナルツアーは、3月に「舞鶴半日観光」・「京都フリープラン」
など5つのツアーを計画し、7月下旬から9月上旬にかけては「天橋立と温泉」・
「京都の観光名所 世界遺産 嵐山」など7つのツアーを計画し、多くの来客者
が訪れた。
2) おもてなしの状況
【ふ頭内にて】
①総合案内所にて、京都舞鶴港クルーズサポータによる、外国語での案内を行う。
②物販と飲食ブースでは、舞鶴発祥の「肉じゃが」や、舞鶴特産品の「万願寺甘
とう」や「舞鶴茶」のふるまいなどの飲食ブースを設ける。
③入港時に、和太鼓やジャズ演奏、幼稚園児や高校生、ゆるキャラによる出迎え
などによるセレモニー・パフォーマンスで歓迎するおもてなしを行う。
④ふ頭から、西舞鶴駅前や道の駅舞鶴港とれとれセンターなどへシャトルバスを
運行している。

⑤ふ頭では乗船客や乗務員へのサービスとして、フリーWi-Fiを設置している。
【まちなかにて】
①西区商店街の西市民プラザを休憩スポットとして、外国人乗船客向けに、琴や
三味線の演奏、書道体験、着物の着付け体験、和雑貨の販売、お茶席など多彩な
おもてなしイベントを開催している。
②西駅交流センター内で、交通案内や観光案内の特設ブースを設ける。
③田辺城跡では、田辺城ガイドの会による案内で城跡と資料館の見学。
④まちなかでは、市内散策のMAPの配布や、まち歩きスタンプラリーの実施な
どに取り組まれ、外国人乗船客を市内全域で歓迎ムードを盛り上げている。
3) 京都舞鶴港クルーズ客船おもてなし関係者連絡協議会
京都舞鶴港では、地元商店街、商工関係者、学校、市民団体、ボランティアガイ
ド団体など、クルーズ客船のおもてなしに係る関係者の連絡協議会を設け、乗船
客のおもてなし向上を目指して活動を展開されている。
4) クルーズ客船の経済効果について
クルーズ客船の寄港地では、船会社が支出する接岸料などの経費はもちろん、乗
船客の観光や飲食、乗務員の買い出し、見学者の来場などで多くの経済効果が見
込めるが、寄港の形態や滞在時間、客層によってその効果は大きく異なり、収容
人数の多い外国船や、発着クルーズによる経済波及効果が非常に高くなる。
2016 年度試算で、直接効果 164, 176 千円で波及効果は 266, 066 千円が得られた。
5) その他
◎京都舞鶴港クルーズサポーター(現在70名登録でパフォーマンスや通訳案内)
の確保や、外国人観光客向けの免税店舗の拡充などが図られている。
2. まとめとして
本市においてクルーズ船寄港に伴う観光振興については、クルーズ船専用岸壁、
泊地の早期整備はもとより、旅客ターミナル施設や集客施設の整備などのハード
面と、熊本県と連携した県独自の寄港地ツアーの計画など、おもてなし向上に繋
がるクルーズ関連事業の早期整備が急務だと感じた。

委員名【 北園 武広 】

◆視察日:平成30年1月26日(木)

◆視察先: 大阪府堺市

◆調査項目:堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

1. 施設整備の経緯について
平成23年1月に「堺市文化観光拠点整備事業整備方針(基本構想)」を策定する。
平成24年6月に来訪者サービス施設整備事業実施方針案の公表をおこなう。
平成25年11月に歴史文化にぎわいプラザ施設建設工事の着工
平成26年5月に指定管理者の指定に関する議案が上程され6月に可決される。
平成26年10月に来訪者サービス施設建設工事の着工
平成27年2月に歴史文化にぎわいプラザ施設建設工事が完了する。翌3月には
展示製作が完了し、3月20日「さかい利晶の杜」がオープン・管理運営の開始
2. 施設の概要について
○事業の目的を、堺の特色ある歴史文化を広く発信し、観光集客に資するため、
公共施設「さかい利晶の杜」や、民間事業者が飲食などを提供する来訪者サービ
ス施設「湯葉と豆腐の店 梅の花」・「スターバックスコーヒー」を一体的に整備
することで、来訪者の市内周遊を促進し、まちの賑わい創出と地域経済の活性化、
都市魅力の向上を図るとしている。
○敷地面積は、公共施設:4,135 m°・駐車場:4,139 m°・梅の花:1,308 m°
・スターバックスコーヒー:1,081 m²となっている。
〇イニシャルコストは、建設工事・展示製作・周辺道路整備工事等:約34億円
〇ランニングコストは、指定管理料:約2億円
※歳入として来訪者サービス施設土地貸し付け料など:約1,600万円
○指定管理者は、堺市立歴史文化にぎわいプラザ運営グループ代表以下4社

3. 現状(来場者数など)及び経済波及効果について

平成28年度の入館者数は331,938人で、経済波及効果は推計概算で下記 【建設経費を含まない場合】

- ○生産創出(消費支出などのよる効果):約81億6,600万円
- ○粗付加価値創出(生産活動によって新たに生み出された効果):約37億8,900 万円 ○雇用創出(新たに雇用を創出した効果):295人となる。

4. まとめ

今回の視察で、公共施設と民間事業者が飲食などを提供する来訪者サービス施設を併設し、土地貸付け収入を得る考え方や、指定管理者制度を取り入れながらも、一部(展示・来訪者の人数把握など)は市営とするなどの事を学び、本市計画中の八代民族伝統芸能伝承館の管理運営に、活用できるか検討できたらと思う。また、行政担当者が課題として捉えていた「若年層の取り込み」の解決策として、アニメとのコラボ事業【スタンプ&フォトラリーin 堺】を企画し、コラボ事業限定の書き下ろしイラストグッズの販売など、歴史文化の昔と今をマッチングさせるストーリー性を活かしたユニークな発想は、とても参考になり本市計画中の伝承館でもリピーターなど、来館者取り込みの参考となる有意義な研修となった。

委員名【 増田 一喜 】

◆視察日:平成30年1月24日(水)

◆視察先:京都府京都市

◆調査項目:インバウンド戦略(施策・取り組み)について

京都市における外国人宿泊客数は、訪日外国人客の増加に伴い同じように増加している。2004年から2012年までの平均は、年間70万人位で推移していたが、2013年から113万人、2014年183万人、2016年には318万人と急激に増加してきた。これは、来日客の8人に1人が京都市内に宿泊していることになる。国別に見ると、中国、台湾等で、東アジアが多数を占める。また、京都市の観光消費額も2016年には、1兆862億円(過去最高)と2020年目標の「観光消費額1兆円」を4年前倒しで達成している。外国人訪日者の訪日動機は、1位 日本食を食べること、2位 ショッピング、3位 自然・景勝地観光となり、8位に日本の歴史・伝統文化の体験がある。京都市においての来訪動機は、「寺院・神社、名所・旧跡」の観光、そして、「伝統文化鑑賞」と続く。

京都市の観光施策は、2001年から2010年までに観光客5,000万人を目標に100施策を実施。2010年から2014年は観光客という「量」の確保をしつつ、世界が共感する観光都市として「質」の向上を目標に加え116の事業を実行している。2014から2020年は「量」、「質」、更に「感動」して貰い、世界が憧れる観光都市を目標に加え191事業を展開し、京都市として、京都経済の牽引役として市民と共に目標達成に頑張っている。

また、市民の皆さんも行政に何でも頼ることなく行政と協力している。一例として、外国人客に日本におけるトイレ使用のマナーを

理解してもらうため、民間会社の人達が、日本語、英語、中国語、 韓国語を書いたイラストのチラシを制作し、配布してみたところそ の効果がすぐに現れたとのことである。

八代市にも、「神社・寺院、史跡」、そして、ユネスコの世界文化 遺産に認定された「妙見祭」等がある。観光都市を目指すことを1 つの施策として実施するには、今現在、八代港に国・県の支援によ り、2017年には70隻のクルーズ客船が来航し、数年後には2 00隻の来航を目指している。このクルーズ船の乗船客を如何にし て八代に留め八代で消費してもらうかである。その為には、観光場 所となるところの環境整備や来客者合わせた言語の対応。また、お 金の支払い方法については、たいていの外国人は現金支払いではな くカード決済が主であるというので、カードやスマートフォンでの 決済に対応できるシステムづくりに取り急ぎ取り組む必要がある。

委員名【 増田 一喜 】

◆視察日:平成30年1月25日(木)

◆視 察 先:京都市舞鶴市

◆調査項目:クルーズ船寄港に伴う観光振興について

2016年には舞鶴港に17回のクルーズ客船の寄港があり、延べ約22,000名を超えるお客様が来訪した。その内訳は、外国船については、舞鶴港初寄港の「シー・プリンス」をはじめ、舞鶴港連続発着クルーズが実現した「コスタ・ビクトリア」等、14回の寄港があった。来客数の内訳としては、外国船は14回で約21,000名、邦船では計3回の寄港で約2,100名であった。

舞鶴市はクルーズ乗船客のおもてなしの取り組みとして、地元商店街、商工関係者、学校、市民団内、ボランティアガイド団体等、クルーズ客船のおもてなしに係る関係者の連絡会議を設置し、「京都舞鶴港クルーズサポーター」により外国語での案内をおこなうなどのサービス充実に努めた。それから、舞鶴発祥の「肉じゃが」や特産品の「万願寺甘とう」、「舞鶴茶」等のふるまいやお好み焼き等の飲食ブースを設置しておもてなしをされた。また、入出港セレモニー・パフォマンスとして、入港時は和太鼓やジャズ演奏、幼稚園児や高校生、ゆるキャラによる出迎え等により、歓迎のおもてなしが行われた。出港時には、吹奏楽の演奏に加え、舞鶴港のイメージカラーである「青いハンカチ」や電灯でお見送りされた。

来訪者に対し、埠頭から西舞鶴駅前や道の駅舞鶴港とれとれセンター等へのシャトルバスが運行された。そして、「フリーWi-Fi」も設置した。

また、連絡会議では、おもてなしイベントを行ったり、通訳ボランティアやクルーズサポーター等の人材も準備している。この様な

取り組みは、行政が主体ではなく、どちらかと言うと民間の方々が主体になって官民連携した取り組みである。

八代市においても行政主体ではなく、官民一体となりより良い連携を図ることが、これからの八代を豊かにすることではないかと思われる。

委員名【 増田 一喜 】

◆視察日:平成30年1月26日(金)

◆視察先:大阪府堺市

◆調査項目:堺市文化観光拠点「さかい利晶の杜」について

堺市において、観光集客の増加や、市域内の集客資源等を結ぶ堺観光ネットワークの構築により、市内周遊の促進を図り、まちの賑わい創出と都市活力の向上に寄与ことを目的に「さかい利晶の杜」が建設された。

この「さかい利晶の杜」は、堺の特色ある歴史文化を広く発信し 観光集客に資するため、堺が生んだ茶聖・千利休、歌人・与謝野晶 子をテーマとする文化施設や堺観光の玄関口となる観光案内施設及 び大型バスの駐車場も備えた公共施設(堺市立歴史文化にぎわいプ ラザ)と、民間業者が飲食等を提供する来訪者サービス施設(湯葉 と豆腐の店梅の花、スターバックス)を一体的に整備した複合施設 である。

堺市立歴史文化にぎわいプラザに入館すると、正面に「さかい利晶の杜」がある宿院界隈の昭和初期時代を再現したジオラマ模型が配置され、戦前の堺の様子が分かるようになっている。そして、タッチパネルやタブレットを利用することで堺の見どころをすぐに知ることができるようになっている。また、江戸時代後期の堺を描いた「泉州堺絵図」の陶板フロアーマップがある。

1階奥に進むと「千利休の湯館」があり。そこには「デジタル住 吉祭礼図屏風」があり、東洋のベニスと称された堺の町の屏風絵が 楽しめる。次に「茶の湯の変遷」をテーマに、利休が若き日に過ご した堺今市屋敷の茶室と、利休晩年期の京の聚楽屋敷の床の間が、 それぞれ忠実に再現されている。そして、「千利休の湯館」を出て、 外の巡回通路の先に「さかい待庵」(この内部を見学するには、「さかい待庵」特別観覧セットの購入が必要で時事前予約制)があり、これは創建当初の姿を全く新たに復元しものである。中に入ると色や塗り方、柱の配置の仕方などの工夫で狭いながらも奥行きを感じさせるものであり、また何となく「侘び・寂び」を実感できた。

2階には「与謝野晶子記念館」があり、部屋の中央に美術品としても高い価値のある晶子の本の装丁が多数展示してある。また、その回りには、晶子が渡欧時に持参した着物や残された原稿など貴重な品物が展示してある。

とにかく、テーマに沿いこだわりをもって忠実に再現してあることに感服した次第である。来客者に対するおもてなしとは、このように細かな所までこだわって再現・復元し、それを十分に見て頂くことであると再認識した。